

Vol.61

Vol.61 (2014年 冬号)

PMI 日本支部 ニュースレター

Best Practice and Competence / PM 事例・知識	3
Activities / 支部活動	22
PM Calendar / PM カレンダー	29
Fact Database / データベース	30
Editor's Note / 編集後記	34

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

◆北米 kongress 報告 全体概要 3

- PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2014-North America & Global Congress 2014 North America に参加して
PMI日本支部 会長 奥澤 薫
PMI日本支部 副会長・企画担当理事 片江 有利

◆PMI Japan Festa 2014 全体報告 5

PMI日本支部 セミナー委員会 Festa2014統括
野々市谷 有里

◆PMI Japan Festa 2014 基調・招待トラック・休憩時イベントの概要 7

- 国産旅客機MRJを世界の空へ! 講師:岩佐 一志氏
PMI日本支部 セミナー委員会 川村 祥二
- 医療機関における超上流からのプロジェクトマネジメント 講師:成清 哲也氏
PMI日本支部 セミナー委員会 成田 渉
- プロジェクション・マッピングは世界をどう変えたか!? 講師:土井 昌徳様
~クリエイターが見据えた未来展望~
PMI日本支部 セミナー委員会 玉置 志津
- 三陸鉄道 復旧・復興の取組み 講師:望月 正彦氏
PMI日本支部 セミナー委員会 近藤 昇久
- 参加型だと人は動く ~成長し続けるコミュニティづくりを目指して~ 講師:太田 彩子氏
PMI日本支部 セミナー委員会 鬼束 孝則
- 建設会社ならではの広報活動とその組織づくり 講師:岩坂 照之氏
PMI日本支部 セミナー委員会 鬼束 孝則
- コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築 講師:森 雅志氏
~公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり~
PMI日本支部 セミナー委員会 森本 信一
- 休憩時イベント等
PMI日本支部 セミナー委員会 太田 正人

Activities / 支部活動 22

- 部会紹介 ~ ソーシャルPM研究会 (その3)
WG3: ソーシャルPM 普及活動
WG4: ソーシャルPM実践
PMI日本支部 ソーシャルPM研究会 普及活動WGリーダー 小谷野 正博
同 ソーシャルPM実践WGリーダー 徳永 礼

PM Calendar / PM カレンダー 29

- PMI日本支部関連セミナー等

Fact Database / データベース 30

Editor's Note / 編集後記 34

◆商標等について

「PMI Project Management Institute」とそのロゴおよび「PMP」、「CAPM」、「PMBOK」、「OPM3」、「Quarter Globe Design」は、米国および他の国で登録されているプロジェクトマネジメント協会のマークであり商標です。プロジェクトマネジメント協会のマークの対象リストについては、プロジェクトマネジメント協会の法務部門へお問い合わせください。「ITIL® (IT Infrastructure Library)」は、英国及び欧州連合各国における英国政府 Cabinet Office の商標又は登録商標です。

Best Practice and Competence / PM 事例・知識

北米 कांग्रेस 報告 全体概要

PMI Leadership Institute Meeting (LIM) 2014-North America & Global Congress 2014 North America に参加して

PMI日本支部 会長 奥澤 薫

PMI日本支部 副会長・企画担当理事 片江 有利

米国アリゾナ州のフェニックスコンベンションセンターにおいて、2014年10月23日～25日の間にPMI LIM 2014 (Leadership Institute Meeting) -North Americaが、引き続き10月26日～28日まではPMI Global Congress 2014-North Americaが開催されました。

LIMの概要については同行した事務局長から10月末にホームページ上で既報のため、本稿では会長、副会長の2人が後半のCONGRESSについてそれぞれ印象に残ったセッションを紹介しします。

1. PMI Global Congress 2014-North Americaの概要

世界のPM関係者が参加して、研究成果等の発表、経験交流、情報交換を行うPMI最大のイベントです。

- ・出席者 : 2,200名
- ・参加支部・組織 : 1,179支部・組織
- ・参加国 : 60カ国

2. セッションの全体像

- (1) オープニングセッションは2014 PMI議長リカルド・トリアナ、続くキーノートスピーチはアーヴィン・マジック・ジョンソンが、彼の経験、とりわけチームビルディングに言及していましたが、講演時間の半分は会場を巡回し写真に納まっていたため、会場は興奮のつぼとなっていました。
- (2) その後のセッションは、アジャイルマネジメント、ビジネス・アナリシス、チェンジ・マネジメント、戦略マネジメント、PMO、リーダーシップ、教育、リスクマネジ

- メント、プロジェクト、プログラム、ポートフォリオの専門技法といったトラック・テーマに分類され進行しました。
- (3) この他2日目にキーノート・スピーカーとしてDr. Daniel J. Levitinによる“The Organized Mind : Thinking Straight in the Age of information Overload”、Tamara Kleinbergによる“Think sideways : The Power OF Disruptive Thinking”が講演されました。
- (4) 1日目の終わりは展示会場のオープニングレセプション、2日目は複数会場を使ってネットワーキングが催されました。
- (5) セッションと並行して展示会場では、ビジネス・アナリシス、チェンジ・マネジメント、コンサルティング、教育研修、リスクマネジメント、ソフトウェア&IT等の企業が出展していました。変わり種はサウジアラムコで、リクルーティングを展開していました。
- (6) また面白い試みとして、ランチ会場に業界別テーブルをしつらえ、業界でのネットワーキングを促進するサポートをしていました。

3. 印象に残ったセッションの紹介

(奥澤)

私が印象に残ったセッションは、プロジェクトマネジメントの方法論の設計と実装に関するものでした。このセッションは、ワルシャワでの実際のプロジェクトに基づいたもので、方法論はパイロット・プロジェクトのワークショップでシミュレーションをしながら設計をするというもの。また、方法論は、コミュニケーション⇒パイロット・プロジェクト⇒スキル開発⇒ポジティブ・イメージの段階を踏んで組織に実装さ

■北米 kongress 報告 全体概要

れるというもので、方法論の設計や実装において乗り越えなければならなかったさまざまな障害や挑戦について熱く語っていました。

(片江)

私は「PMO」、「チェンジ・マネジメント」の領域に絞ってセッションを選択しました。

まず、PMO関連では、Kill the PMOと題して、PMOの監視・コントロールが強化されることにより、レポートが増加し逆にビジネスを妨げているので、不必要で複雑なプロセスをシンプル化してほしいという内容のセッションがありました。その一方で、PMOのモデルを設定し、精緻にPMOを構築、レベルアップしていくステップをケースの事例も交えて解説したセッションやエンタープライズ・ワイドPMOを構築するステップを解説したセッションもあり、その対比が面白く感じました。

また、チェンジ・マネジメントでは、企業や組織がそれを計画し、実装、維持して行くけん引役をPMOが果たす等の提案がありました。しかし、現段階ではまだ仮説レベルで具体的な事例がある訳ではなく、キーワードとしてチェンジ・マネジメントが提唱されているものの、方法論等の成熟はこれからだと感じました。

また、番外編としてBusiness Analysis & Requirements management Practice Guidesの編さんに携わっているチームメンバーによるパネル・ディスカッションを聴講しました。ベスト・プラクティスを集めているのでBABOK®より具体的であること、IT限定ではなくあらゆるビジネスを想定していること、ビジネス・ライフサイクルとして上流から下流を一貫して体系化する予定であること、もちろん他のコンセプトとも共存していること、PMがビジネス・アナリシスを実現することは複雑性への対応として必要であること、ソフトスキルが重要なカギとなる、といった意見が出されていました。

最後に「PMはビジネス・アナリシスにシンパシーを持ってほしい。今回策定されるガイドラインはベーシックなレベルだが、プラクティショナー・ガイド・レベルアップを展望しており、その先は資格化もある」と締めくくられました。

今回のLIM、CONGRESSを通じて感じたことの一つに若い世代が多く参加していることがあります。PMP®資格ではなくCAPM®資格で支部活動のアジャイル部会を担当しているという若いメンバーと話をしました。

日本支部ではPMの高齢化が進む中、これとは対称的に若い世代を着実に取り込んでいる他支部の活動をぜひ参考にしたいと思っています。



kongress会場（道路の両側）



キーノートスピーカー Dr. Daninel J. Levitinを
紹介するPMI理事 Deanna Landers



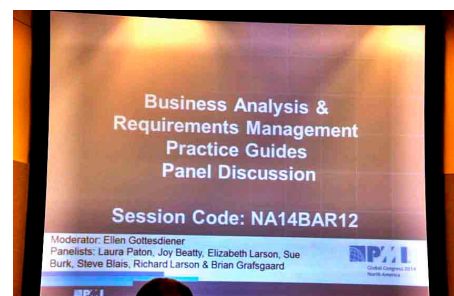
初日オープニング時のキーノート・スピーカー
マジック・ジョンソン氏



2日目のキーノート・スピーカー
Dr. Daninel J. Levitin 氏



Business Analysis Practice Guide & Requirements
Management Practice Guideの
パネルディスカッション



同左パネルディスカッション用の投影内容

PMI Japan Festa 2014 全体報告

PMI日本支部 セミナー委員会 Festa2014 統括 野々市谷 有里

2014年11月8日・9日、メイン・テーマ「To the Next. (次の舞台へ)」、サブ・テーマを「～未来を創る新時代のPMを考える～」と題し、PMI日本支部セミナー委員会が主体となり「PMI Japan Festa 2014」を開催いたしました。

現在さまざまな業種・業界で急成長している企業や団体は、新しい未来を創るという確固たるビジョンを持っており、揺るぎない信念のもと、決断したことを着実に実行しています。そして、私たちProject Manager (PM) には、今までのPMの視点を一歩進め、未来を創るという観点から将来像を見据えその過程を考えることにより、次の舞台でPMがとるべき行動や心構えについて考えていくことが求められています。今回のFesta 2014では、急成長しているビジネスエリアをリードされているフロントランナーの方々にご講演をお願いすることができ、参加者からは「いろいろと刺激をもらった」、「大変勉強になった」、「楽しかった」、「感動した」などのコメントを多数いただきました。

また、今年も、設備の整った慶應義塾大学日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホールにおいて開催させていただきました。昨年の反省点を踏まえ、各講演後のPDU受講確認方法の改善（確認用シールの配布の廃止）、講演時間の見直し、講師との交流を図っていただくための休憩時間の拡大、2日目の昼食用教室の確保など、新たな取り組みを行いました。今年も予想以上の参加申し込みをいただき、急きょ定員を増やしましたが、締め切り1カ月前には1日目は満席となり、

最終的には延べ750名を超える受講者のみなさまにご参加いただきました。会場内は少々窮屈に感じられたかもしれませんが、全体的には気持ちよくセミナーに集中し、有意義な時間を過ごしていただけたものと思います。

今回のFesta 2014も、数多くの方々に支えられ、成功裏に終えることができました。本当にありがとうございました。

Festaでは、PMの「お祭り」の名にふさわしく、Project Managementの粋にとらわれ過ぎない、楽しく魅力ある講師の選定を行ってきたいと思っています。今後もみなさまのニーズを的確にくみ取り、時代の動きに敏感に、さらに充実したプログラムを提供できるようにしてまいりますので、よろしくお願い致します。

以下の概要報告は、Festa 2014を企画・運営したセミナー委員が分担して執筆しました。

参加いただけなかった方はぜひ御一読ください。

2015年は、同じ慶應義塾大学日吉キャンパス協生館藤原洋記念ホールにて、11月7日(土)・8日(日)に開催予定です。

さらにグレードアップする「PMI Japan Festa 2015」にご期待ください。

Best Practice and Competence / PM事例・知識

PMI Japan Festa 2014 全体報告



受付の様子



受付の様子



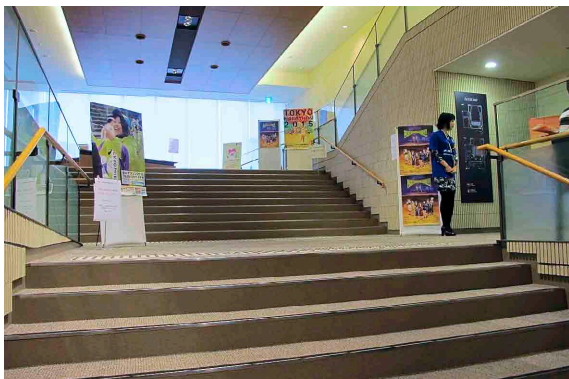
講演



講演



講演



ホワイエでのポスター展示



ホワイエでの講師との交流



交流会



スタッフ一同

PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

セミナーレポート

■ 国産旅客機MRJを世界の空へ!

PMI日本支部 セミナー委員会 川村 祥二

【セミナー概要】

□開催期日：2013年11月8日(土) 12:30～13:30

□タイトル：国産旅客機MRJを成果の空へ!

□講師：岩佐 一志氏

□講師のプロフィール：

三菱航空機株式会社 コーポレート本部 経営企画部長

〈略歴〉

- ・1959年生まれ、徳島県出身
- ・1983年3月 東京大学経済学部卒業、同年4月、三菱重工業株式会社入社
- ・工作機械事業部(京都)に配属後、約13年間、工作機械事業の経理、企画等を担当
- ・1996年1月 社長室企画部に異動し、全社経営計画の取りまとめ、事業ポートフォリオの見直しなどを担当
- ・2008年4月 三菱航空機株式会社設立に伴い、同社に異動
- ・2010年4月 営業部長に就任
- ・2013年2月より現職



【はじめに】

日本の航空機産業は、ボーイング等の海外プログラムへの参画によりTier1(下請け)として発展してきました。

しかし、中国や東南アジア各国などの新興国が、航空機産業を重点産業と位置付け、賃金競争力も武器に事業の伸長を図る中、中長期的な視点に立った場合、日本が労働集約型である構造組み立てを中心とする下請け事業のみで航空機産業を伸長させていくことが困難になるのは必定でした。

このような状況を打破し、航空機関連事業を将来にわたる日本の成長産業とするには国産旅客機の開発が不可欠であるとの認識のもと、再び民間航空機インテグレータとなるため、2008年にMRJ(Mitsubishi Regional Jet)プロジェクトが開始されました。

今年10月、MRJはロールアウトを終え、来年には初飛行を予定しており、受注機数も450機に届こうとしています。本講演では、MRJの開発の背景、今後の市場見通し、MRJの競争力ならびに開発・事業化の現状をお話いただきました。

【講演の内容】

講演の冒頭で、10月18日のロールアウトの映像が映し出されました。とがった機首と引き締まったMRJの機体が、開発・製造者と一緒に格納庫から登場する雄姿は、「みんなで造り上げてきた」という気持ちが伝わってくる印象的な映像でした。

● プロジェクト目標

まず、MRJがターゲットとするリージョナルジェットの世界市場が将来的に2倍の規模に拡大すること、それに応えられる機体性能を具体的な開発のビジョンに据えたことで目標を

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

明確に設定しています。具体的には、3つのセールスポイント「優れた燃費と低騒音」、「優れた経済性」、「快適な客室」について、コンペティターとの優劣が紹介され、総合的にMRJが将来の市場での競争力を持つ機体であることが示されました。

●プロジェクトを支える技術の停滞

わが国の航空機開発は、太平洋戦争前・中の航空機の開発技術がバックグラウンドにありながら、戦後の7年間、技術開発・製造ともに禁止されたことが、欧米に大きく後れを取る原因となりました。その後、航空機産業の再生をかけて、国産民間機YS-11の開発を進め、1962年に初飛行に成功し、量産化に駒を進めたものの残念ながら販売機数が180機に留まり、1973年に生産終了を余儀なくされました。それ以降は、軍用機のライセンス生産と旅客機国際共同開発へ参画することにより、高品質・高効率の部品製造技術を磨き上げ、素材、エネルギー、構造、制御など幅広い分野に事業を波及させることで、日本の産業技術の進展に大きく寄与してきました。しかし、機体のインテグレータ（組み立て産業における『棟梁』）として日の目を見ることはありませんでした。

●インテグレータへの転換と課題

これまで日本の航空産業は、インテグレータの下請け（Tier 1）に位置づけられ、重要な部品（パーツ）製造を任せられるまでに、大きく成長しましたが、航空機全体をインテグレートする技術者を育成することができませんでした。一方、新興国では製造技術が進歩してきているだけでなく、国ぐるみで機体全体を製造する産業の成長を目指していることから、わが国が目指す「航空機産業を、将来にわたる日本の成長産業と位置づける」ビジネスモデルが、早晩破綻することが懸念されていました。そこで、自らがインテグレータとなり、機体製造を行うMRJがナショナルプロジェクトに位置づけられ、2008年から開発がスタートしました。

YS-11の轍を踏まないためには、世界の市場に認知され、販売機数を拡大することが求められます。そのために解決しなければならない課題は以下のとおり、ほとんどが『人』に関することです。

①開発・製造部門：

50年間製造のブランクがあるため、インテグレート全体をマネジメントできる人が育っていませんでした。現在は、

試験機体の製造に従事した技術者が後進を育成し、今後の販売拡大を支える仕組みが必要となります。

②販売を支える金融部門：

航空会社は高額の機体を購入することになるため、ファイナンスの組成をセットにして顧客に営業する要員が必要となります。

③販売後のカスタマーサポート：

販売後も飛び続ける機体をメンテナンスし続ける必要があるため、パーツのサプライチェーンとサポート要員を世界中に配置する必要があります。

●プロジェクトの今後

MRJは来春に初飛行を予定しており、機能試験、飛行特性試験などを実施するために、計5機体が製作され、型式証明（TC：Type Certificate）を取得した後、2018年に初号機を納入する予定です。

MRJプロジェクトは、環境優位性、乗客の快適性、エアラインの収益性の全てを満足しており、世界の空へはばたく十分なポテンシャルを秘めていると期待されます。

【講師担当余話】

MRJについては、昨年のFestaでの講演をお願いしようと思いましたが、講師の岩佐様から「ロールアウトした後のほうが、時期的に良いのではないかと」アドバイスいただきました。くしくも今年のFestaのテーマが『To the Next.』であったことから、まさに時宜を得た講演であったと思います。

10月18日のロールアウトは、日本らしさが強調された素晴らしい演出でしたが、なんとといっても主役のMRJの精悍な顔つき、スマートな機体が印象的で、講演への期待はいやがうえにも盛り上がりました。その一方で、岩佐様は講演直前になっても、世界中を飛び回って営業活動をされており、連絡はメールだけ。「本当に当日時間通りに来ていただけるのか？」と心配でしたが、講演後にハワイエにお越しいただいたの談笑時間には、これまでのFestaでは見たこともないほど多くの参加者から次々に質問が投げかけられ、20分の休憩時間では足りないほど盛況ぶり、大成功だったと自負しています。

Festa2014のトップバッターとして、期待どおりの内容で、担当者でありながらワクワクしながら聞きほれた講演でした。

セミナーレポート

■医療機関における超上流からのプロジェクトマネジメント

PMI日本支部 セミナー委員会 成田 渉

【セミナー概要】

□開催期日：2013年11月8日(土) 13:50～14:50
 □タイトル：医療機関における超上流からのプロジェクトマネジメント

□講師：成清 哲也 氏

□講師のプロフィール：

東京医科大学 医療情報統括室 課長

- 日本医療情報学会評議員（幹事）、上級医療情報技師能力検定試験委員会委員長、日本医療情報学会関東支部副支部長、関東医療情報技師会世話人、関西医療情報技師会世話人、PMI日本支部PMBOK®プログラムセミナー委員会メンバー、医療PM研究会メンバー、PMP、上級医療情報技師
- 〈略歴〉
- 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療管理政策学専攻修士課程修了（修士）
- 東京医科大学に入職、コンピュータシステムに関する業務に従事

〈主な著書〉

- 『医療プロジェクトマネジメント ～医療を変える国際標準マネジメント手法～』（篠原出版新社・共著）
- 『新版医療情報第2版 医療情報システム編』（篠原出版新社・共著）、
- 『医療情報サブノート第3版』（篠原出版新社・共著）



【はじめに】

日本は、国民皆保険制度、フリーアクセス、自由開業制という世界でもユニークな医療提供体制を作り、世界最高レベルの平均寿命を達成しています。そして、これを支える医療機関は、医師をはじめとして多くの専門家で構成されており、24時間365日休むことなく運営されています。金融機関や官公庁、製造業であってもシステム停止期間を何時間か設けることができますが、医療機関の情報システムはそれできません。そのため、医療のプロが求める情報システムに対する要求は他の産業と比べてみても大変高いものとなります。さらに、診療報酬の改正は2年に1回あり、その通知から実施まで1カ月も無い状況でのシステム更新が求められます。そのため各病院の医療情報システムの担当者は、Q.C.Dの最適解を見つけ出すことが困難であり、大変苦勞しているのが実情です。

今回の講演では、成清様ご自身が経験した大規模システム導入失敗の経験から、これまで段階的に職務拡充、職務充実へと紆余曲折を経て歩んだ、一ユーザー企業の事例を振り返り、プロジェクトマネジメント、PMOの専門家の皆さまに大変参考となる話題を提供していただきました。

【講演内容】

●アジェンダ

- 医療情報部門の課題
- 超上流の可視化、共有化
- 超上流と上流をつなぐ
- 現場から超上流へサイクルを回す
- プロジェクトマネジメントチーム

講演は、医療機関、特に大学病院というのは、あのテレビ番組「白い巨塔」の写真を見せるところから始まりました。確かにこのイメージは強いのですが、実際は専門家の集団、医師の種類の多さからも大変複雑な組織、複雑な業務を担うシステムが要求されていることがわかりました。またサービ

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

ス産業といえども、非営利企業でもあるということ。冗談でも「ついでに点滴でも打っておきますか」などとは言えない、他のサービス産業とは異なる環境であるということを説明いただきました。Hospiceという病院の語源は巡礼者や旅人の宿泊施設や休憩所であったとのお話から、だれでも、どこでも医療が受けられる日本は大変恵まれていると感じました。

一方、医療機関を支える情報システムは専門家が使用するシステムであり、経営戦略からのIT戦略を立てにくい。そのため、超上流から上流へ引き継ぐべき情報システムの方針や計画が明確にできないままプロジェクトがスタートしていた。結果、フルオーダーシステムに10年かかったとか、2年かけたプロジェクトが凍結を余儀なくされたという話をいただきました。

こういった医療機関における課題に対して一つ一つどのように取り組んできたか説明いただきました。まずはコミュニケーションを重視するために、職員の席の並び替えや行動指針の取り決めを行った。しかし、コミュニケーションを重視しただけではパフォーマンスが出なかったため、さらに見通しの良いプロジェクトやシステムづくりを目指したとのこと。特に私が注目したのは、システム化の目的や目標は当然決めるのだが、「システムではやらないことを最初から決めておいた」という点。これは非常に参考になる話でした。レントゲン写真などの医療フィルムをデータ化するシステムで、フィルムを無くすという目的は当然であったが、ここで「動画は対象としない」と決めたとのこと。当然、動画を対象とすると、DISK容量、ネットワーク、CPUの負荷が一気に高まり、システムのレスポンスが悪くなるのは医療関係の業務を知らない私でも察しがつきます。

次に共感できたのはゴールの設定です。ハイキングしたい山の話は、実は2日目の太田彩子様からも同じような話がありました。いきなり富士山に登ろうということではなく、このくらいの山（身近な山）をゴールにして、あとはやるべき

ことをきちんとやるというお話でした。やるべきこととは、超上流の可視化、共有化です。プロジェクトの背景、目的、ゴールを1枚で作成し、共有化することです。

「バリューは現場から生まれる」というキーワードの部分は時間の関係ですべてのスライドを説明していただけませんでしたが、自らPMPを取得し、学会に参画したり、ITベンダーの教育に参加するなど、現場に出て日々勉強しておられることがよくわかりました。また、成清様がそういう風土、組織作りを仕向けてきた点がすばらしいと感じました。

Festa2014、多士済々の講師による講演がありましたが、唯一情報システムのプロジェクトで、なおかつプロジェクトマネジメントの話がされていたのが成清様でした。一見地味な話と見えますが、とても参考となる1時間でした。

【講師担当余話】

成清様は実はFesta2013の当日ボランティアとして裏方で参加していただいていた。私もFesta2013にはセミナー委員会のスタッフとして参加していましたが、照明やマイクの担当であったためステージ横のミキシング・ルームに2日間居ました。成清様は2階席担当でしたので、ほとんど顔も合わさず、話もできないまま2日間を終えてしまいました。今回の講演の依頼で東京医科大学を訪問するまで名前と顔が一致しておらず失礼をしてしまいました。

私も経験したことがない医療機関の情報システムに関わるお話で、前PMI日本支部会長の推薦とのことで、お願いに伺った際、「本当に私で良いのか？」と逆に聞かれ、大変恐縮しておられました。ところがいったん講演が始まると、穏やかに話をされ、内容も大変興味深く、あっという間の1時間でした。成清様お願いして本当によかったと思います。皆さんもまずはFestaのスタッフを経験し、その後講演する人を目指しませんか？まさに「To The Next.」。

最後になりましたが、成清様に心から感謝の意を表します。

セミナーレポート

■ プロジェクション・マッピングは世界をどう変えたか!?

～ クリエイターが見据えた未来展望 ～

PMI日本支部 セミナー委員会 玉置 志津

【セミナー概要】

- 開催期日：2013年11月8日(土) 15:20～16:20
- タイトル：プロジェクション・マッピングは世界をどう変えたか!?
～ クリエイターが見据えた未来展望 ～
- 講師：土井 昌徳 様
- 講師のプロフィール：
株式会社SUPEREYE 代表取締役社長／クリエイティブディレクター
- フリーの映像ディレクターとしてミュージックビデオや商業映像を制作、またライブハウスやクラブなどでVJとしても映像演出に携わる。その後CGプロダクション勤務を経て、2012年に株式会社SUPEREYEを設立。プロジェクションマッピングをはじめ、エンターテインメント空間における映像表現を多数手がけている。
- 代表作として、SUPEREYE主催の新体感イベント「PROJECTION MAPPING JOURNEY!!!」、アトレ吉祥寺「はなびの広場 プロジェクションマッピング」、「笑っていいとも！」プロジェクションマッピングを演出。また柴咲コウ、LUNA SEA等、アーティストLIVEでの映像演出や企業のイベント等、商業施設空間での映像演出を数多くこなす。



【はじめに】

東京駅丸の内駅舎、大阪城、そして東京ディズニーランドなど、さまざまな名所をこれまでに体感したことのない景色に染め上げ、大きな話題を呼んでいるプロジェクションマッピング。見慣れたはずの建物が見たことのない景色に変わる、まるで建物が動いているように見える、といった新しい体験を味わえることから、多くの人が魅了されその活用シーンはますます広がる様相を呈しています。

そんな華やかなプロジェクションマッピングを、技術面・演出面から陰で支えるクリエイターがいます。クライアントや関係各所のステークホルダマネジメント、センスやアイデアといった世界における人材育成、それはとても緻密なプロジェクトマネジメントの世界。本講演では、華々しい演出の舞台裏について、お話いただきました。

【講演の内容】

ちまたで話題のプロジェクションマッピングですが、その定義や歴史まで知っている人、考えたことがある人は、ほとんどいないと思います。講演冒頭、実例を投影しながらの解説に、会場ではうなずきながら聞き入る受講者の姿が見られました。

前半では、土井様が実際に手がけられた、テレビ番組でのプロジェクションマッピングの映像を見せていただきました。番組の演出に引き込まれそうになりつつも、その演出を見事に彩るプロジェクションマッピングに目を見張りました。ニュース等で取り上げられるような、有名な建造物へのプロジェクションマッピングとはまた異なるもので、その映像自身が興味深いものでした。

が、一転、続いて見せていただいたのは、その番組でのプロジェクションマッピングに実際に使用された資料の数々です。画像あり、見取り図あり、何やら文字や数字が書き込まれた資料あり。クライアントからの要望を受けてコンテンツを企画し、現地調査や環境調査を踏まえて、機材の選定に入

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

り、見積もる。この、おのおのの段階で、さまざまな資料が用意されています。私たちは、どうしても映像をイメージしがちですが、それはあくまで製作段階でのお話。制作に入る前の企画段階では、実にさまざまな工程や作業があり、緻密な計算に基づいてマネジメントされているのだということに驚きました。

後半は、株式会社SUPEREYEの自社イベントを事例に、企画、制作の流れと、それを実現する体制等についてうかがいました。企画段階の資料と、それを実現した結果の画像、映像を対比することで、創り上げられていく過程を想像することができたのではないかと思います。出来上がるものの華々しさの陰に隠された、とても緻密で、しかも実直な積み上げを感じることができました。

この自社イベント、実はFesta2014と同じ、11月8日(土)、9日(日)に開催されていました。いわば、本番リリース当日

です。にもかかわらず、プロジェクト・マネジャーである土井様不在でも、滞りなくイベントが実現されている。これぞ、プロジェクトマネジメント！と感じた瞬間でした。

【講師担当余話】

講演の依頼で初めてお会いするまでは、華やかな（まるで芸能界のような）世界の方なのだろうと勝手に思い込んでいました。ところが、実際にお会いしてお話したところ、講師の土井様も、講演に至るまでいろいろご支援をいただいたスタッフの浦野様も、プロジェクトマネジメントに関する造詣があり、非常に話が弾みました。業種、業界によらない、プロジェクトマネジメントの重要性を感じました。

自社イベント初日当日にもかかわらず、ご講演いただいた土井様、イベント直前でご多忙であったにもかかわらず、準備段階からずっとご支援いただいたスタッフの浦野様に、心から感謝申し上げます。

セミナーレポート

■三陸鉄道 復旧・復興の取組み

PMI日本支部 セミナー委員会 近藤 昇久

【セミナー概要】

□開催期日：2013年11月8日(土) 16:40～17:40

□タイトル：三陸鉄道 復旧・復興の取組み

□講師：望月 正彦氏

□講師のプロフィール：

三陸鉄道株式会社 代表取締役社長

〈略歴〉

- ・昭和27年 岩手県花巻市出身
- ・昭和49年3月 山形大学人文学部（法律）卒業
- ・昭和49年4月 岩手県職員
- ・平成15年7月 久慈市助役
- ・平成18年4月 地域振興部地域企画室長
- ・平成20年4月 盛岡地方振興局長
- ・平成22年3月 同上退職
- ・平成22年6月より現職



【はじめに】

望月様が三陸鉄道の社長に就任された翌年の平成23年（2011年）3月11日に東日本大震災が発生し、岩手県の沿

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

岸部に路線を持つ三陸鉄道も甚大な被害を受けました。想定外の困難な状況から復旧へ向けて、望月様は陣頭指揮を執り、3年を経た今年（2014年）4月、ついに全線運行再開を果たされました。

このご講演では、東日本大震災から復旧までの道のりとともに、三陸鉄道が直面するさまざまな課題への取り組みについて、多くの写真を交えながらお話しくささいました。

また、ご存じの通り、三陸鉄道はNHK連続テレビ小説「あまちゃん」に登場する北三陸鉄道のモデルであり、ドラマの主要な舞台である北三陸駅や袖が浜駅は三陸鉄道久慈駅や堀内駅で撮影され、ドラマに登場する東北の美しい風景はまだ記憶にも新しいかと思ひます。

【講演内容】

「あまちゃんをパクリました！」お座敷列車の車内の様子を映した画面を見せながら、望月様はご講演を始められました。アテンダントが海女の格好をし、ウニ丼を販売しているのが好評で、観光客がたくさん訪れているとのこと。今年上半期は20年ぶりに黒字の見込みとお話があり、会場では大きな拍手が湧きおこりました。

●三陸鉄道の概要

1980年10月の国鉄再建法の成立により「特定地方交通線」（廃止対象の赤字ローカル線）として盛線・宮古線・久慈線が指定されたため、三陸鉄道はバスに転換するか第三セクターとして地方で運営するか選択を迫られました。岩手県と沿線市町村は協議し第三セクターによる運営を選択し、1984年4月に三陸鉄道は開業しました。10年間には新線区間の効果で黒字だったものの、人口減少・マイカー普及のため1994年以降は赤字となりました。しかし、児童・生徒や高齢者の貴重な生活の足となり、また多くの観光客を運び観光振興にも貢献していました。

●震災時の初期対応

3月11日14:46地震が発生し、15:04本社に災害対策本部を設置しました。15:40ごろ津波を視認し、乗客と一般社員は避難所、幹部社員は陸橋に避難しました。17:50ごろ本社に戻ったところ停電で何もできない状況でしたが、三陸鉄道はディーゼル車のためエンジンをかけると電気が使えるので、宮古駅に止まっていた車両の中に列車内対策本部を設置することにし、社内外との連絡体制の確保、乗客・社員

の安否確認、被災状況の確認、復旧手順の検討を開始しました。列車内対策本部は電気が復旧する16日まで継続しました。

●部分復旧への動き

3月11日から2日間、望月様はずっと考えていました。赤字ローカル線で、何十億円もの被害が出ている状況で、三陸鉄道はこれからも必要だろうか。結論は「必要だ」でした。震災から5日後に久慈・陸中野田駅間（11.1Km）で運転を再開、その後3月中に全線の三分の一に当たる北リアス線の一部（36.2Km）まで運転区間を伸ばしました。

●全線復旧に向けて

全線復旧に向けたポイントは資金を得るための県や国への「要望活動」、三鉄ががんばっていることを知らせる「サービス向上・アピール」、減少した運賃収入を補う「収入を得る努力」の3点です。「被災地フロントライン研修」の実施、「復興祈願レール」の販売など、さまざまな取り組みを実施しました。

●復旧計画

2011年11月、国の支援が決まり本格復旧工事に着手しました。復旧工事は被災状況や工事の難易度に応じ一次～三次に分け、3年計画で行うこととしました。工事は順調に進み、計画通りに2014年4月全線で運行を再開することができました。

●今後の課題と対応策

三陸鉄道は全線運行再開できましたが、課題は山積しています。震災復興の遅れ、少子高齢化・過疎化の進行、モータリゼーションの進行です。

対応策として、交流人口の拡大（観光誘客、教育・研修旅行など）、駅を中心としたまちづくりの推進、地域産品等の販売促進（三鉄ブランド）などさまざまな取り組みを実施しています。

●おわりに

鉄道が廃止されて栄えた町はありません。その優位性（安全・安心、定時性、速達性、大量輸送）は、地域の貴重な財産です。今後は、車社会のコスト（例：道路などの膨大な維持管理費用←税金）やリスク（環境問題や事故）も考慮し、公共交通のあり方を考えるべきではないでしょうか。

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

【講師担当余話】

東日本大震災から3年を経ても、残念ながら東北の復興はまだまだ遠いという現実があります。Festa 2014の開催にあたって、東日本大震災からの復旧・復興をテーマにした講演を企画しようと考えましたが、どのような切り口がよいか頭を悩ませていました。そんなとき、三陸鉄道が全線再開するという話を耳にしました。

震災による甚大な被害の後どのような過程を経て全線再開に至ったか、またそれを成し遂げたリーダーはどのような方

なのか、これはプロジェクトマネジャーのみなさんにも関心をもっていただけるテーマになると直感し、三陸鉄道社長の望月様にご講演をお願いしました。

望月様のご講演終了時にみなさんからいただいた多くの拍手、この企画を実現できたことをうれしく思った瞬間でした。望月様のリーダーとしての決断力・実行力は、プロジェクトマネジャーのみなさんにも大きな気づきを与えてくれたものと思います。

セミナーレポート

■参加型だと人は動く ～成長し続けるコミュニティづくりを目指して～

PMI日本支部 セミナー委員会 鬼束 孝則

【セミナー概要】

□開催期日：2014年11月9日(日) 9:30～10:30

□タイトル：参加型だと人は動く

□講師：太田 彩子 氏

□講師のプロフィール：

一般社団法人 営業部女子課の会 代表理事
株式会社CDG取締役

〈略歴〉

- 早稲田大学法学部卒業
- 女性や女性の営業職が専門で、これまで延べ42,000人以上の働く女性を支援してきた経験を持つ。株式会社リクルートにおいてホットペッパーの営業担当者として数々の賞を受けた後、「一人でも多くの女性が輝きながら夢や目標を達成する」ことを支援すべく、2006年に株式会社ベレフェクトを設立。企業内のダイバーシティプロジェクト支援において45,000人以上の女性営業を支援してきた。自らのライフワークとして、2009年より「営業部女子課」を主宰し、営業女子を応援（現在、女性営業コミュニティとしては日本最大級）。その活動がNHK「グラン・ジュテ」やNHKニュース、newsZERO、日経新聞一面など様々なメディアに取り上げられ、多くの共感を得る。2013年からはさらにキャリアアップをめざし株式会社CDG（ジャ



スダック上場)の初の女性取締役役に就任。「1億売るオンナの8つの習慣」(かんき出版)や「売れる女性の営業力」(日本実業出版社)など著書も多数。

【はじめに】

昨今、「女性活躍」がちまたで叫ばれるようになり久しいのですが、実際は「名ばかり女性活用」である職場も少なくありません。その理由は、当事者である企業のトップや管理職、女性社員自身がその取り組みに対して「参加型」になっていないからなのです。今でこそ太田様が主宰される営業部

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

女子課は「参加型」をモットーに、エネルギーあふれる営業女子メンバーたちと商品開発を進めたり、全国21支部に展開して自発的な営業女子リーダーを生み出し地域活性化に貢献したりするまでになりましたが、ここまで至るには失敗の連続だったそうです。プロジェクト・マネジャーの世界でも同様に女性を含む多様なメンバーたちは相互理解、能力発揮、ミッション達成に向けて日々奔走していると言えます。今回の講演では、45,000人以上の営業女子を支援し、参加型コミュニティへと育て上げた経験を通じて、「どうすれば人は参加型になれるのか？」についてのヒントをいただきました。プロジェクト・マネジャーにも共通して適用できる考え方や行動に加え、メンバーのモチベーションの上げ方についても大変共感できる講演となりました。

【講演内容】

●アジェンダ

- ・「かしこカワイイ」と「達成女子」に女子が共感した理由
- ・どんな時に自発的なリーダーが生まれるのか？
- ・参加型だと人は動く

ズバリ、コミュニティ作りの難しさと正面から向き合い、さまざまな苦勞を乗り越えて成功に至った道のりを分かり易く説明いただきました。今回ご紹介いただいたコミュニティは女性営業職を対象としたものですが、職種や性別に関係なく汎用的に使える考え方やアイデアが多く、気付きの多い講演でした。一番初めにコミュニティ作りを狙って募集をかけたものの、実際に来ていただいたのはサクラの3名を除くと実質1名だったそうです。一瞬はがくぜんとされたそうですが、そこから太田様の素晴らしいところで、これまで高い山（ゴール）を目指して一緒に登りましょうと言ってきたアプローチを見直し、登頂するとそこからの眺めはこんなに素晴らしいので、一緒に味わいましょうよ、という方向に変えたそうです。また、本を出版する話があり、そこでコミュニティ・メンバーで話しあったところ、仲間同士で同調す

るあまり、面白みに欠けた成果物が出来上がってしまったそうです。強みばかり伸ばしていてもダメ。ダメなときはダメと、予定調和を壊すことが重要で、正解があることは逆に誰にでもできる仕事であり、良い仕事をするためには、保身の逆を行くことだとのことです。それを貫いた結果、素晴らしい作品が出来上がったそうです。お互いを信頼し自分の意見をオープンに出し合うというスタイルに変えていくことの大切さをあらためて体感し、こうした活動から、参加者も徐々に増え、現在のような営業女子系としては日本最大級のコミュニティに育ったというお話をいただきました。

また女性の持つ優れたコミュニティ能力を全面的に活かし、橋渡しの役割を担ってもらうことで参加型の意識が芽生え、リーダーとして頭角を現すケースがあるという報告をいただきました。これらは全て太田さんの実体験を基にしたもので、良い気付きを与えていただいたと感じました。一連の講演内容からも、太田様の地道な活動の積み上げとさまざまなアイデアを果敢に適用して来られた様子が伝わってくる講演でした。

【講師担当余話】

太田様へ初めてお会いし、講演の打ち合わせをさせていただいた際、PMI日本支部のボランティアメンバーとしての活動に大変興味を持たれ、特にどのようにしたらボランティアでありながらモチベーションを高く維持できたり、活動に長く参画出来たりするのかについて多くの質問をいただきました。その裏側には今回のご講演で説明いただいた「コミュニティ作りの難しさ」について、何らかのヒントを見つけ出そうとされていて、しゃつたのだということも講演後に気付かされました。それはコミュニティを自分の子供のように大切に、育てようとする親心のような愛情の現れ。太田様がいかに真剣にコミュニティ作りに取り組まれているのかを垣間見た瞬間でもありました。

最後に太田様ほかの関係者の々へ心から感謝の意を表しつつ、今後もつながりを持たせていただければと願っています。

セミナーレポート

■建設会社ならではの広報活動とその組織づくり

PMI日本支部 セミナー委員会 鬼束 孝則

【セミナー概要】

- 開催期日：2014年11月9日(日) 13:00～14:00
- タイトル：建設会社ならではの広報活動とその組織づくり
- 講師：岩坂 照之 氏
- 講師のプロフィール：
前田建設工業株式会社 総合企画部 広報グループ長
工学博士、元日本大学理工学部社会交通工学科非常勤講師

●前田建設工業株式会社 ファンタジー営業部の主な軌跡

- 2003年 2月 Project01 昭和47年作品
「マジンガーZ」格納庫検討
- 10月 Project02 昭和57年作品
「銀河鉄道999」地球発進用高架橋検討
- 2005年 6月 Project03 平成17年作品
PS2「グランツーリズム4」サーキット検討
- 7月 日本SF大賞 星雲賞
ノンフィクション部門 受賞
- 2006年 6月 Project04
「世界初！ ロボット救助隊を創ろう」（組織
実現概略検討）
- 2010年 3月 Project05
「機動戦士ガンダム、地球連邦軍ジャブロー
を創ろう！」連載
- 2012年 7月 宇宙戦艦ヤマト 建造準備および発進準備工
事の検討

【はじめに】

「建設業に全く興味のない方に、われわれの技術や業務内容をご理解いただき、できれば建設業のファンになっていたく方法はないか?」。今回ご講演いただいた楽しくも壮大な活動はここから始まったとのことでした。

この難テーマに対し前田建設工業株式会社が出した回答が「ファンタジー営業部」の創設で、これは部署名でなく前田建設外部ホームページ「コンテンツ」の名称とのこと。その



内容はアニメ・ゲーム中の特徴ある建造物ほかに関する実現検討を、Webに連載形式で公開していくもので、2003年2月に第一弾の連載が始まり、現在は宇宙戦艦ヤマト建造準備および発進準備工事の検討を進めているという経緯となっています。

当初は広報主眼に開始した本プロジェクトだったようですが、立ち上げ時から現在までの過程において成熟度が向上し、現在では異業種協働という大きな効果を生み出すまでになっているとのこと。「ファンタジー営業部」参加各社は全て無償業務であり、一方でアニメ・マンガが対象とはいえ検討には各社とも少なからぬ負荷がかかるため、プロデューサーかつディレクター役となる前田建設担当者の「タダ働きマネジメント」はばかばかしくも大真面目な試行錯誤の繰り返しであるというお話でしたが、実際のご講演でもその通りの内容でした。異なる会社を一体的に動かし、無報酬でも要求以上のアウトプットを引き出し、参加者皆が笑って終わることのできる活動とは、どういうものなのか、今回大いにヒントを得ることができた講演でした。

【講演内容】

普段仕事で培ってきた技術を使って夢のある楽しいことはできないか? また活動によってさまざまな業界の人達との交流を図ることはできないか? こうした問いに真正面から

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

お答えいただいた素晴らしい講演でした。

マンガの世界、空想の世界の建造物を現実に造るとしたら？ という壮大な夢物語に対し、持ち得る知識と技術力をフルに活用し、会社や業界を越えて検討・見積もってしまうプロフェッショナル魂には頭が下がりました。どんなに困難なことがあっても岩坂様ご自身や仲間の持つ熱意とアイデアで解決していく姿はプロジェクト・マネジャーにとっても大いに気付かされるものがあります。マジンガーZの格納庫検討から始まり宇宙戦艦ヤマトの地下発射準備工事検討に至るまで、構造設計書・施工計画書、それらに基づく見積書など多くの成果物はお役所に実際に承認をもらうほどの本格的な内容とのことで、感動しました。これまでの見積もりは以下のとおりだそうです。

- 平成15年
「マジンガーZ」 格納庫=72億円
- 平成16年
「銀河鉄道999」 地球発進用高架橋=37億円
- 平成17年
PS2「グランツーリズム4」 サーキット=221億円
- 平成18年
「世界初！ロボット救助隊を創ろう」=361億円
- 平成22年
「機動戦士ガンダム」 ジャブロー基地=2,532億円
- 平成24年
「宇宙戦艦ヤマト2199」 発進準備工=1,207億円

講演をお聴きしていて何より感じたことは活動されている皆さんが本当に楽しんでいらっしゃるのと、諦めないことです。ともすると妥協したくなるのを時には岩坂様が、時には仲間が叱咤激励し、結果につなげているところはプロ

ジェクト・マネジャーとしても大いに学ぶべき部分でした。また、活動を開始する時の苦勞として、役員へ起案する際に撤退ルールも提示したことや、継続していくヒントとしてある程度の脱線を許すことだともお話されていた点がとても印象的でした。今では会社の中でも広報グループ長として活躍され、またファンタジー営業部は広報の目玉にもなる存在となり、ビジネスも生み出しているとのことで、活動の波及効果にも驚かされました。

今回の講演は、仕事に対する考え方を見直す良いきっかけになったのではないのでしょうか？

【講師担当余話】

今回のご講演に向けた打ち合わせで岩坂様と面談させていただきましたが、大変気さくでまた、ユーモアたっぷりとても魅力のある方でした。ご自身の学生時代や仕事の中のことでも面白おかしくお話いただきましたが、ネタも尽きることが無く、時間が過ぎるのがあっという間だった印象を持っています。

今回の講演のタイミングとしては、まさに宇宙戦艦ヤマト2199が映画上映されている真ただ中という旬の時期でしたので、岩坂様ご自身もさまざまところからの講演依頼が入っており、引っぱりだこのご様子でした。今回 岩坂様をPMI Japan Festa 2014に参加された方々にご紹介できたことを大変光榮に思っています。

岩坂様は多くの方々となつながらあえることを喜びとされておられますので、ぜひ皆さんの会社と一緒に活動したいという方がおられましたらご本人へコンタクトされることをお勧めします。

最後に岩坂様をはじめ関係者の方へ心からお礼申し上げます。

セミナーレポート

■コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築 ～公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり～

PMI日本支部 セミナー委員会 森本 信一

【セミナー概要】

- 開催期日：2014年11月9日(日) 15:50～16:50
- タイトル：コンパクトシティ戦略による富山型都市経営の構築
- 講師：森 雅志 氏
- 講師のプロフィール：
富山県 富山市長
〈略歴〉

- 1952年8月13日生まれ。中央大学法学部卒。
- 1995年4月、富山県議会議員に初当選。
- 2002年1月に旧富山市長に、2005年4月に新富山市長に初当選。以後、富山市政を担う。
- 「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」を基本政策に、人口減少時代にあっても魅力あるまちづくりを推進するとともに、若者たちが将来の暮らしに希望を持てるよう、20年後、30年後の世代にも評価される施策をぶれずに進めていくことに全力で取り組む。
- 好きな言葉は、「知行合一」（行動が伴わなければ、真に知っているとは言えないこと）。
- 趣味は、雑文を書くこと、登山、韓国語会話、イタリア語会話、サクソ演奏など。休日には乗馬やヨットを楽しむなど富山の豊かな自然を満喫して過ごす。



【はじめに】

富山市は2008年に政府より全国で初めて環境モデル都市に指定されました。また、2011年には環境未来都市として、2012年にはOECD（経済協力開発機構）によりメルボルン、バンクーバー、パリ、ポートランドといった世界の名だたる都市とならんでコンパクトシティの世界先進モデル都市にも選出されました。現在では再生可能エネルギーの活用や交通体系の整備、そしてコンパクトシティの実現を通じ、2050年までに50%のCO₂削減を目標に掲げています。

欠点をも含め、富山市が置かれた外的・内的環境要因を分析し、競争力の源泉を見極めた上でひとつの構想としてコンパクトシティを紡ぎ上げ、世界に先がけてスマートシティへのひとつのアプローチとしてコンパクトシティを実現した富山市。どのような分析により何が明らかになったか、そしてそれをどのように捉え直すことにより、どのようなチャンスが見えてきたか。そして今後何を目指すのか。

すでに都市として、プロジェクトの複合体として、ワンステージ上に昇華した富山市の過去から未来へつながる構想とその源泉、そして構想実現に向けての障害や解決への取り組みなど、PMI Festaに参加し一つ上のステージを目指すPMにとって学びの多いご講演を期待し、PMI Japan 2014 Festaの最終講演は2002年より4期連続で富山市長を務めておいでの森雅志様にご講演いただきました。

【講演内容】

●アジェンダ

- 富山市を取り巻く課題
- 富山市のまちづくりの基本方針
- 公共交通の活性化
- 公共交通沿線地区への居住促進
- 中心市街地の活性化
- 富山市のまちづくりに対する国際的な評価

講演は、富山市の課題とその解決のための基本方針、そし

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

てそれを実現するための3本柱、それらを構成する具体的な施策と数値による効果測定という流れで進められました。基本コンセプトは、過去40年に亘り郊外に分散されてきた都市機能を公共交通機関の沿線に再集約して「お団子と串」のような都市構造を実現し、長期的に都市機能の効率的な運用を図ること。これに基づく以下のようなユニークな施策がユーモアを交えながら次々と熱く語られました。

- バス路線・鉄軌道が富山駅に結節している点を恵まれた資源と位置付け、積極的に公費を投入したこと
- 公共交通機関に公設民営を導入したこと
- 自動車よりも電車移動のほうが目的地での滞留時間が長く目的地での消費が大きくなることをデータから割り出し、65歳以上は郊外と市街地間の料金を100円として「いつの間にか外出している」環境を創ったこと
- 上記に関連して健康寿命を延ばし、経済の活性化を同時に実現すること

また、その結果としてスーパーマーケット・医療機関・公園の500m圏内人口割合が約8割に、地域包括支援センター・市役所等・図書館の2km圏内人口割合は約9割となり、市民にとって高い利便性が実現できたこと等が、説得力のあるデータと共に紹介されました。

最後のスライドには「一つの政策目標を、複数の施策の実施によって達成する。また、一つの施策の実施によって、複数の政策目標に効果をもたらす」とありましたが、まさに、データ分析のもとに幾つもの施策が実践され政策目標に対して確かな効果を上げていること、そして富山市がますます魅力的な都市となり価値を高めていることが客観的に示されました。

【講師担当余話】

お忙しいスケジュールの合間を縫って今回のご講演のために富山から飛行機で上京いただきましたが、日吉キャンパスの並木道で初めてお会いする直前まで、担当の私は飛行機や交通機関の状況を確認しながら生きた心地がしませんでした。今こうして高い満足感とともに締めくくりの報告ができ

ることを大変幸せに思います。

講演依頼を差上げた当初、秘書の方を通し「この講演依頼にあたっての熱意を聞かせてほしい」との回答をいただきました。筆者は2013年のPMI Japan Forumでセミナー記者を担当し広島県 経営戦略審議官 田邊昌彦様のご講演『日本一強い県庁を目指して』をレポートしましたが、厳しい自由競争にさらされている民間企業顔負けの緻密な構想と戦略に感銘を受けたことに触れ、そのレポートもお見せするとともに、ぜひ官が先鞭をつける新たな事例をご教示いただきたいと必死に食い下がったのを覚えています。

結果、期待を大きく上回り、講演中いつときも途切れることのないパッションと洞察、そしてその成果についてユーモアを交えてご紹介いただきました。

講演開始時刻が近づき控室から会場にご案内すると、会場に入る前に立ち止まられ、会場全体に向かって一礼されました。受講者に対してはもちろん、言葉によって人を動かす人間独特なものなのか、このホールとその尊厳に対する礼節と感じました。

また、会場を後にされるときにも会場に対し一礼されましたが、ご講演内容はもちろん、その姿に感銘し拍手喝采を送った受講者も多いのではないのでしょうか。

最後に、次のスケジュールのため小走りでも森市長を日吉駅にご案内しながら伺った話から。

「種々の施策はブレインやスタッフのアイデアを擦り合わせた結果なのですか？」という問いに対し、「招聘されるカンファレンスなどで聞いた話からヒントを得て、基本的に自分で考えます」とのこと。Festa参加者が講演を通して新しい知識や見識に触れようとしているのと同様に森市長もまた学び続け、そこから成果を生み出されていることに新たな感銘を受けました。また、「未来の展望を数値で表現していけば、個人の直接的な利益に関わらず、市民は納得し賛成してくれる」という趣旨のことをおっしゃっていたのが印象的でした。

セミナーレポート

■休憩時イベント等

PMI日本支部 セミナー委員会 太田 正人

【ポスターセッション概要】

□開催期日：2014年11月8日(土) 11:30～
9日(日) 15:20の休憩時間

□実施場所：ホワイエ、協生館内教室

□実施概要：

- 講演に関するポスター、掲示物、展示物、書籍の展示とビデオ放映
- 講師の方々との懇談
- お飲みものの提供



ポスターセッション、講師との懇談の様子

【はじめに】

Festa2014では、昨年より長く設定した休憩時間をより有意義に過ごしていただくこと、昼食時間をより快適に過ごしていただけることなどに配慮した企画を考えました。

まず、講演時間枠の中では質疑応答時間が取れないため、休憩時間を活用して講師と参加者の方々との双方向コミュニケーションを実現すべく、講師の方々には講演終了後にイベント会場にお越しいただきました。ここでは、講師の方々から提供いただいたポスター、展示物、掲示物、書籍、ビデオ等を交え、講演では聴けなかったこともお話しいただけたため、理解をより深化させることができたのではないのでしょうか。

また、2日目の昼休みには、持参のお弁当を食べていただき、ゆっくり休憩できる場所をご用意しました。

【休憩時イベント内容】

1. 講師の方々との懇談

7名の講師にホワイエに来ていただき、参加者の皆さまと名刺交換、質疑応答などを実施していただきました。参加していただいた講師は以下の皆さまです。

- 11/8(土) 13:30～13:50
三菱航空機株式会社 岩佐一志様
- 11/8(土) 14:50～15:20
東京医科大学 成清哲也様
- 11/8(土) 16:20～16:40
SUPER EYE 土井昌徳様
- 11/9(日) 10:30～10:50
株式会社ベレフェクト 太田彩子様
- 11/9(日) 10:30～10:50
東京マラソン レースディレクター 早野忠昭様
- 11/9(日) 10:30～10:50
前田建設 岩坂照之様
- 11/9(日) 10:30～10:50
日経BP 麓幸子様

2. ポスターセッション

ポスター、掲示物、展示物、書籍、ビデオ映像を講師の方々から提供いただき、展示しました。

- 三菱航空機株式会社 岩佐一志様 [ポスター、MRJ模型、ビデオ映像]
- SUPER EYE 土井昌徳様 [ポスター、ビデオ映像]
- 株式会社ベレフェクト 太田彩子様 [書籍、ビデオ映像]
- 東京マラソン レースディレクター 早野忠昭様 [ポスター]

■PMI Japan Festa 2014 セミナーレポート

- ・前田建設 岩坂照之様 [ポスター、書籍、工事看板]

3. 休憩時スペース・ビデオ上映

協生館内の2つの部屋を昼食時休憩スペースとして提供し、参加者の皆さまの休憩および食事スペースとして解放しました。また、部屋の中では同時に講師提供によるビデオも上映しました。



4. お飲み物のサービス

ペットボトルのお茶とお水を提供しました。

【休憩時イベント担当余話】

休憩時イベントには例年あまり集まっていたはず、飲み物の提供だけに終わることが多かったのですが、今年は例年どおり講師の方々の講演内容が素晴らしい上に、ポスターセッションでの掲示物が秀逸だったこともあり、ホワイエにあふれんばかりの方々が来てくださったのには驚きました。特にMRJの模型や宇宙戦艦ヤマトの工事看板などには大勢の方々がじっくり見入っていたのが印象的でした。

また、2日目の昼食時休憩スペースは多くの方々にご利用いただいたことから、有効だったと思います。

次回も参加者の皆さまに有意義に、快適に過ごしていただけるよう企画していきたいと思っていますのでご支援よろしくお祈りします。

最後に、お忙しい中で参加者の方々との交流に時間を割いてくださり、展示物、掲示物等を提供いただきました講師の方々、関係者の方へ心から感謝の意を表します。

Activities / 支部活動

■ 部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会 (その3)

WG3：ソーシャルPM普及活動

WG4：ソーシャルPM実践

ソーシャルPM研究会 普及活動WG リーダー 小谷野 正博
同 ソーシャルPM実践WG リーダー 徳永 礼

■ はじめに

ニューズレター秋号ではソーシャルPM研究会のWG1（事例調査）、WG2（手法開発）の活動内容について紹介しました。WG1で得られたソーシャルPMへの要求事項に基づいて、WG2で手法の開発を進めています。

そこで順次プロトタイプができれば、それを公開して実践の場で試行し、さらに進展を図っていくことになります。

図1は前回の再掲ですが、4つのワーキンググループの役割をあらわしたものです。

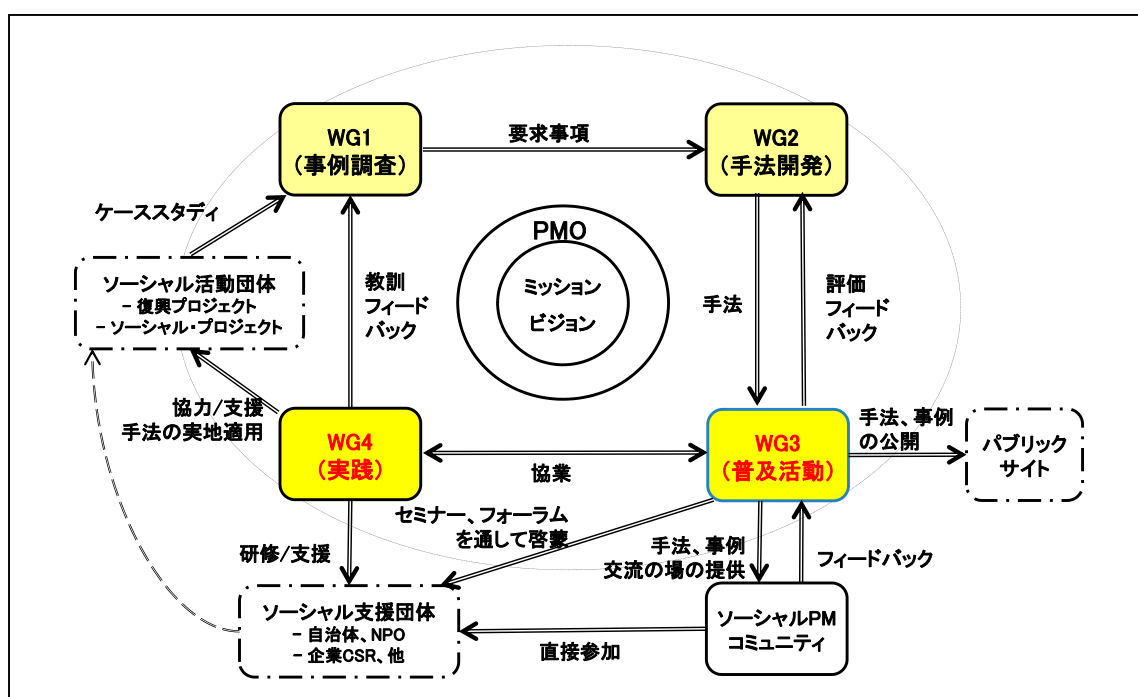
このうち今号ではWG3（普及活動）、WG4（ソーシャルPM実践）の二つのワーキンググループの活動を紹介します。

前回、ソーシャルPM研究会の活動そのものが、「ソーシャル・プロジェクト」であると記しましたが、WG3、WG4の活動はソーシャル・ポートフォリオ計画の第4フェーズ（実現）のプロセスとして、いよいよプロトタイプをパイロットで実施またはフィールドでテストし評価する段階になります。

■ WG3： ソーシャルPM普及活動ワーキンググループ

WG3の当面の目標は大きく二つあります。「ソーシャルPMの段階的発展の『場』の提供」と「人材プール『ソーシャルPMコミュニティ』の立ち上げ」です。そして、それらの実現を円滑に進めるために、ソーシャルPM研究会全体の活動を随時ウェブサイトやFacebookを利用して情報発信していきます。

図1 ソーシャルPM研究会の全体像



Activities / 支部活動

■部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会（その3）

WG3の活動の概要を図2に示します。
 WG3の本年度の実績は図3の通りです。

(1) ソーシャルPMの段階的発展の「場」の提供

ソーシャルPM手法を実際の社会活動に役立つものにするには、社会活動家側（ニーズ）とプロジェクト・マネジャー側（シーズ）の双方の意見が交流する「場」で、段階的に手法を開発・発展させる必要があります。

WG3ではその場を提供することを目的として、「ソーシャルPMセミナー」を開催し、「ソーシャルPMとは」、「ソーシャルPMフレームワークとは」を知っていただき、「ソーシャルPMワークショップ」を通して意見交換を行います。

本年度は、ソーシャルPM研究会の2月の活動開始直後に「ソーシャルPMセミナー（第1回）」を開催し、自治体、NPOなどの社会活動の専門家側とプロジェクト・マネジャー側の双方から多彩な方々にお集まりいただきました。セミナーの内容は以下の通りです。

- ① PMI日本支部の社会課題への取組み報告
- ② ソーシャルPM研究会活動計画
- ③ 復興におけるPM人材ニーズについて（対談）
 一般社団法人 RCF 復興支援チーム 代表理事
 藤沢 烈 様
 福島県浪江役場 復興推進課
 陣内一樹 様
- ④ グループに分かれワールドカフェ形式での意見交換

その後、WG2の手法開発が進み、ソーシャルPMフレームワークのアイデアが固まってきたので、9月にワークショップを開催しました。フレームワークの骨子はニューズレター夏号で紹介した通り、ソーシャル・デザインの手法を取り入れています。ワークショップでは、そのコンセプトを解説するとともに、デザイン思考のいくつかのプロセスを実際に体験してソーシャルPMへの応用について意見交換が行われました。

図2 WG3（普及活動WG）の活動

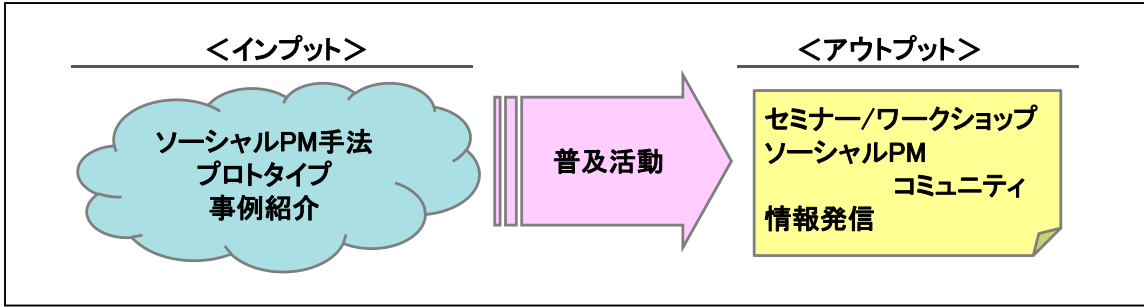
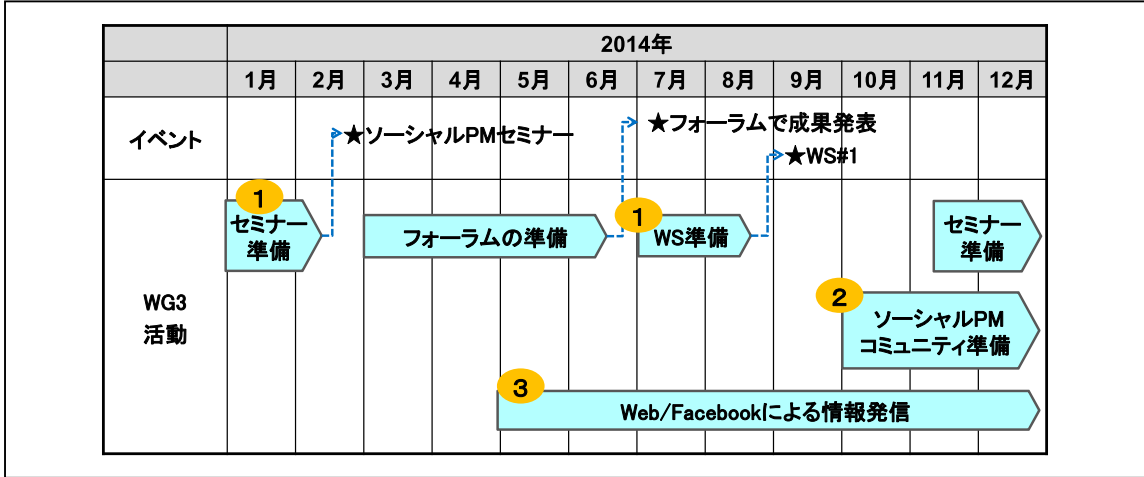


図3 WG3（普及活動WG）2014年活動



■部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会（その3）

セミナーとワークショップはWG2の手法開発の進展とWG4の実践からのフィードバックを受けて今後も繰り返し実施します。

(2) 人材プール「ソーシャルPMコミュニティ」の立ち上げ

社会課題の解決に関心を持つプロジェクト・マネジャーは大勢います。プロジェクトマネジメントの知識と経験を持つ人材が、「ソーシャルPM手法」を理解し社会活動に参加すれば、大いに貢献できることになります。WG3ではそうした人材のコミュニティを形成していきます。本年はその準備に取り掛かることとし、コミュニティ構想がまとまり次第メンバーの募集を行います。

2月のセミナーで講演していただいた藤沢烈様の情報によれば、「被災地に足りないのはお金でも制度でもない、人材が足りないのだ」ということです。

「新しい社会づくりが進められており、今こそ民間の人材が力を発揮できるので、『面白そうだ』という動機でもかまわないから来てほしい。マネジメント経験がある人が現地で

取りまとめ役を担う例も増えている」と言います（毎日新聞2014年09月08日キーパーソンインタビュー）。詳細は以下URLをご覧ください。

<http://mainichi.jp/feature/interview/news/20140908mog00m040008000c.html>

■WG4： ソーシャルPM実践ワーキンググループ

WG4の目的は、実際のソーシャル・プロジェクトに参画し、その経験から得た多くの知見をソーシャルPM研究会が考えるフレームワークにフィードバックし、ソーシャルPM手法への適用に資することです。

東日本大震災の直後からPMI日本支部では「災害復興支援プログラム」を立ち上げて、いくつかのプロジェクトを直接支援してきました。その延長上で復興支援に限らず対象を社会活動全般に広げて活動を続けています。

WG4の活動の概要を図4に示します。

WG4がこれまでに担当した主なプロジェクトは、復興支援プログラムを含めて表1の通りです。

図4 WG4（実践WG）の活動

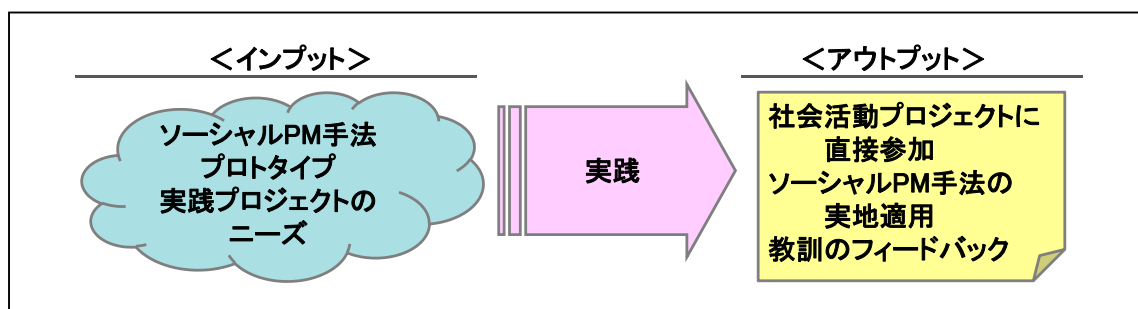


表1 WG4（実践WG）が参画した主なプロジェクト

No.	プロジェクト	支援期間	アウトプット
(1)	三陸ネイチャーセンター 復活プログラム	2012年1月～2013年6月 (1年6ヶ月)	• 企画書（2012年） (専門家による標本採集)
(2)	情報レスキュー隊プロジェクト	2013年4月～ (1年9ヶ月)	• プロジェクト憲章 • 構築WBS、運営チェックリスト
(3)	東北6県ROLLプロジェクト	2013年5月～2014年5月 (1年1ヶ月)	• プロジェクトWBS、ガントチャート • 課題管理表
(4)	ふくしまキッズ — 横浜プログラム	2013年9月～ (1年4ヶ月)	• プロジェクトWBS、リスク管理表 • ステークホルダー登録簿 • ボランティア・カレンダー
(5)	三陸フィッシャーメンズ・ キャンプ	2014年9月～ (4ヶ月)	• WBS

■部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会（その3）

プロジェクトマネジメントとしての支援内容は、最右列のアウトプットに示してあります。

これらのうち、(1)～(4)についてプロジェクトの概要を以下に説明します。

(5)はまだ始まったばかりであるため、本稿での詳細説明は省略します。

(1) 南三陸ネイチャーセンター復活プログラム

●プロジェクトの目的

南三陸町立の自然環境研究・教育施設の再建

●実施主体

南三陸町、南三陸ネイチャーセンター友の会、ほか

●プロジェクトの概要

南三陸ネイチャーセンターは、1984年に地域一次産業の交流拠点として設立されましたが、2011年3月11日の東日本大震災の大津波ですべての設備、標本が流され、建屋は躯体が残るも修復不能となりました。

本プログラムは、同センターの復活とそれによる産業振興・観光支援を目的に実施するもので、学術専門家による企画立案のPM支援を行いました。被害状況調査、ステークホルダー分析、SWOT分析、事業企画、ロードマップ作成を行い「ネイチャーセンター復活への提言」をまとめました(図5参照)。

現在、建設予定地の「かさ上げ計画」のため建設は一時停止しており、専門家によって生物相調査・標本採集および自然史ワークショップなどのイベントを実施しています。建設完了は2015年度中の見込みで、建設が始まればまたプロジェクトマネジメントの支援が必要になると思われます。災害復興は、多くのプロジェクトが並行して走り、リソースも限られた中で環境変化によるロードマップの変更などがあるため、プログラムマネジメントとしての柔軟性が必要となります。

(2) 情報支援レスキュー隊 (IT Disaster Assistance Response Team : IT DART) プロジェクト

●プロジェクトの目的

発災後即座に活動を開始し、被災地の被害状況や救援ニーズなどの正確な情報収集と発信、およびその情報を活かす仕組みと体制を機動的に支援。

●実施主体

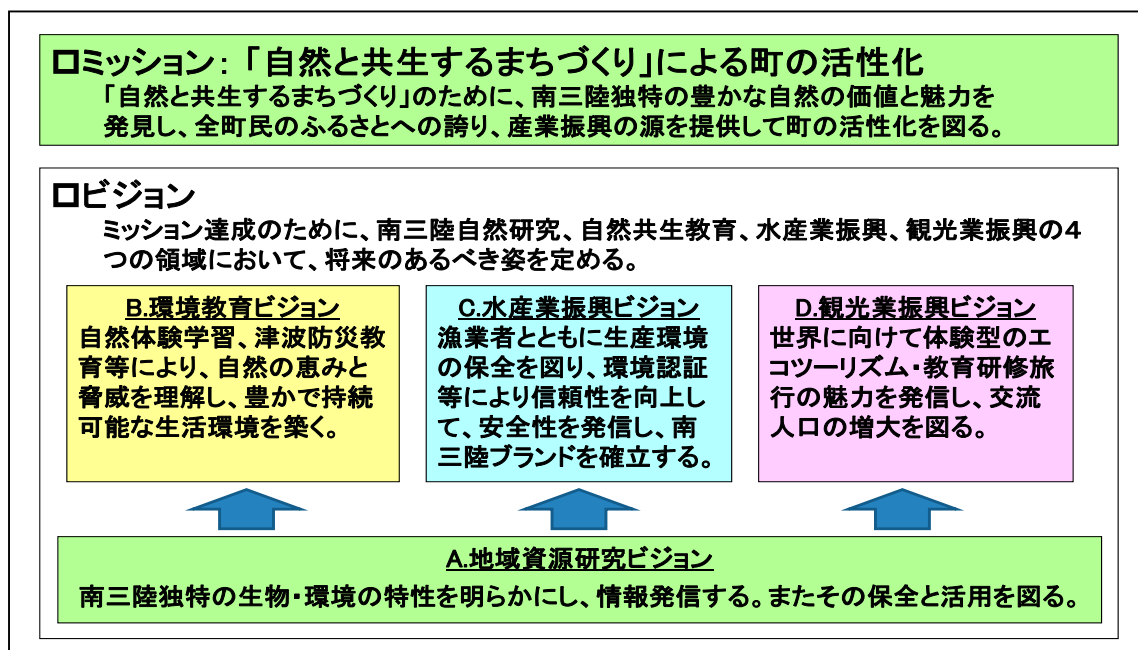
情報支援レスキュー隊 (IT DART)

●プロジェクトの概要

東日本大震災では「情報の空白地帯」が広範に発生したため緊急支援が滞り、そのために失われた命も多くありました。発災直後こそ確かな情報が必要で、被災地からの自発的・主体的な情報発信が特に重要となります。

そのために、被災地と支援を行う行政、団体、企業、個人

図5 南三陸ネイチャーセンター復活の基本方針



■部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会（その3）

を情報でつなぎ実効性ある支援活動ができる環境を実現します。また、人財ネットワークと機材ネットワークを活用して、被災状況や被災後のニーズの変化に応じて必要なチームを派遣し、情報の収集・活用・発信を行います。

情報支援レスキュー隊の構成は図6に示すように、被災地に派遣されて、同様に現地で活動している他の支援団体と連携をとりながら活動する「現地活動チーム」と、その活動が円滑に行われるようにバックアップする「後方支援チーム」から成ります。主な活動内容は、図7のように、「平時」は関係団体との情報支援ネットワークの構築、支援に必要な人材、機材の準備、隊員の育成・訓練を行います。また、「発災直後100時間以内」と「発災後100時間以降」の活動を定義しておきます。

これまでに災害時の情報支援への要求事項を調査し、発災直後100時間およびそれ以降の活動内容を定義して、活動マニュアルを作成しました。さらに活動マニュアルを適正なものにするために数回にわたって稼働検証のシミュレーション・ワークショップを計画しています。

折しも2014年11月22日夜に発生した「長野県北部地震」に際しては、発生後数分で情報収集を開始し、各方面の情報から被害状況、避難所情報を集約し、発信することができま

した。これまでの検討内容を共有できていたために可能となった実地訓練となりました。ここから得られた教訓を今後に活かします。

このような仕組みの定義が整い次第参加メンバーの募集を行い、関連組織との連携を図って体制を確立していきます。来年3月には国連防災世界会議が仙台で開催され、パブリック・フォーラムにおいてワークショップを行い、行動計画と提言を発表する予定です。

(3) 東北6県ROLLプロジェクト

●プロジェクトの目的

東北6県での地域の食材を活用して商品を開発し、それらを各県内で生産・販売することで、地域に経済効果を生むとともに、雇用創出と地域産品の流通促進による一次産業の活性化を図ります。

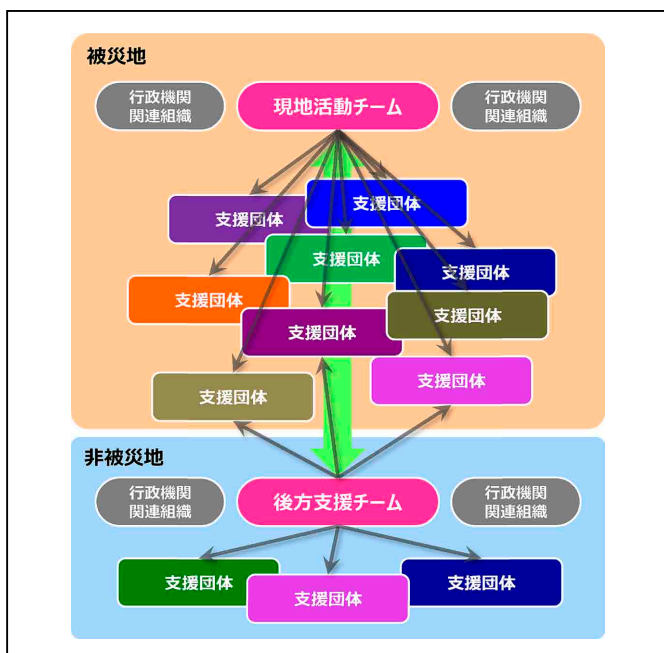
●実施主体

一般社団法人「東の食の会」

●プロジェクトの概要

商品開発のポイントは、各県の食材を用いた「ROLL（巻き物）」食品であることとします。商品開発には表2のように著名シェフ8名を登用し、レシピを公開して地域の誰もが生産・販売できるようにしています。

図6 情報支援レスキュー隊の構成



出典：「情報支援レスキュー隊 DART」ホームページを基に作成

図7 情報支援レスキュー隊の活動内容



出典：「情報支援レスキュー隊 DART」ホームページを基に作成

Activities / 支部活動

■部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会（その3）

表2 各地域の担当シェフと開発商品

地 域	シェフ（敬称略）	商 品
青森県	ドミニク・コルビ	りんごロール
岩手県	園山真希絵	三陸わかめのいわ天ロール
	デイビッド・マイヤー	岩手牛乳のスイーツ
秋田県	萩原雅彦	いぶりがっこのサワーブレッドロール
宮城県	栗原友	三陸カジキのラップロール
山形県	柿沢安那	だだちゃ豆と紅花のロールケーキ
福島県	三國清三	酵母牛のロールケーキ
	徳岡邦夫	桃のビールのロールクッキー

社会貢献型のプロジェクトでは、志を同じくする多くのステークホルダーが参画します。しかも、各人がそれぞれの領域での専門家であり、作業を自分のペースで進めることが多く、他との連動を意識することがややもすると希薄になり、全体の調整を図ることが難しいところです。

(4) ふくしまキッズ-横浜プログラム

●プロジェクトの目的

福島地域を支える礎として、現在の子供たちに夢と希望を育みます。このために子供たちを原発事故後の諸問題から守り、健全な育成と学ぶ権利を支援します。

●実施主体

ふくしまキッズ実行委員会

●プロジェクトの概要

子供たちに対して、毎年継続的に国内各地で生き生きとした集団体験活動の機会を提供しています（毎年全国10カ所で開催し合計参加者は500名）。

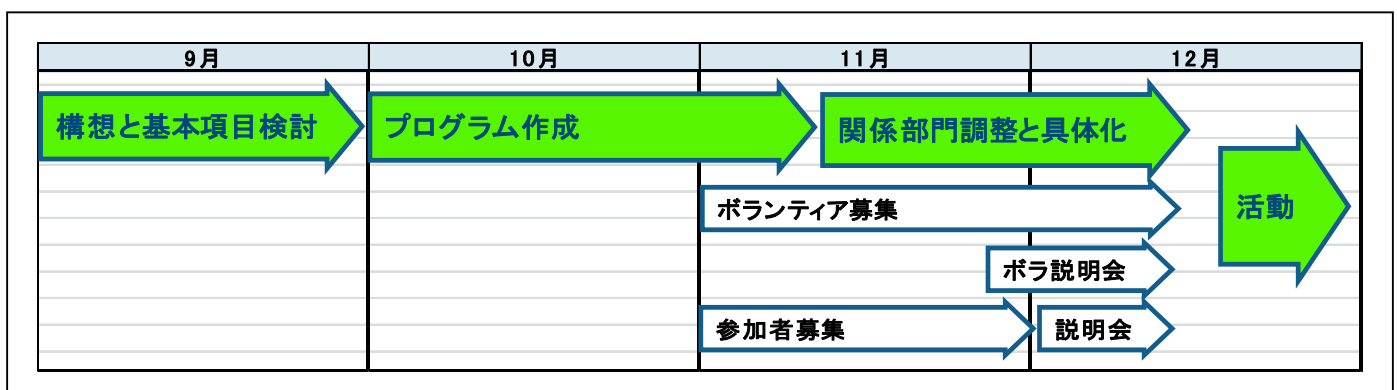
2013横浜プログラムは、2013年12月21日～29日 横浜にて行われ、60名の福島の子供たちが参加しました。横浜の子供たち30名も加わり、支援したボランティアは延べ200名に及びました。

概略スケジュールを図8に示します。

図9 横浜に集まった子供たち



図8 マスター・スケジュール



■部会紹介 ～ ソーシャルPM研究会（その3）

このプロジェクトの特徴として、次のような点があります。

- 国内で多くの支援、協力母体を持つ全国的活動であり、その下の仕組みとして効果的な活動ができる。
- 高い目的意識と情熱のあるボランティア・コアメンバー（十数名）が強力な推進役となって活動をリードしている。
- 多くのボランティア（200名以上）がコアメンバーの下で目的、趣旨を学んで参加している。
- 中高生ボランティア（特に2013年からだけで30名）が精力的に活動し、自ら福島の実情の理解を深め、社会参加の意識を高めてくれた。

今後に向けて、以下のようなことを課題としてとらえています。

- 毎年の活動中にこまかな問題が発生するため、教訓の蓄積（2013年活動では多少実施）を図る。
- ふくしまキッズの子供たちがさらに広い分野の人々と触れ合う機会をつくる。
- 推進トップとボランティア(コア)との間でさらにコミュニ

ケーションを図る（具体的な要求、状態の情報交換）。

- 健康予防対応を充実させる（保健師・看護師ボランティアなど）。

■おわりに

以上、WG3、WG4の活動について説明してきましたが、それぞれにソーシャル・プロジェクトならではの難しさがあります。復興支援プログラムの教訓としてすでに報告していますが、それがソーシャルPM研究会を創設する発端になったところです。今後も各WGの活動の体験からソーシャルPMの在り方を研究していきます。

難しさがあるがゆえにチャレンジする意義があります。4つのWGのテーマや直接支援している個別プロジェクトに関心がある方は、ぜひご参加ください。

ソーシャルPMは新しい取り組みですので、次々に新しい手法、新しいプロセスを試していくことになります。開発の進展とともにセミナー、ワークショップを繰り返して開催しますのでどうぞ継続的に参加してください。

PM Calendar / PM カレンダー

PMI日本支部のイベントならびにPM教育関連セミナーなどの案内です。
詳しくは、PMI日本支部のWebサイトをご参照ください。

■ PMI日本支部関連セミナー

● 1月度 月例セミナー

『トヨタのPDCA』から学ぶ、個人も組織も成長させる方法
～どんな組織でも評価されるPDCAサイクルとは～

- 日時：1月23日(金) 19:00～21:00
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 2PDU

● 九州セミナー

経営から見たPMと現場から見たPM

- 日時：1月31日(土) 14:00～16:30
- 場所：深見ビル1階（福岡市博多駅前）
- 3PDU

● アジャイルプロジェクトマネジメントの基礎

- 日時：1月28日(水) 9:30～18:00
3月25日(水) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● アジャイルプロジェクト入門（SCRUM編）

- 日時：3月13日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● アジャイルプロジェクト スタートアップ入門

～はじめてのアジャイルプロジェクト～

- 日時：2月27日(金) 9:30～18:00
- 場所：PMI日本支部セミナールーム
- 7PDU

● 法人スポンサー連絡会

- 日時：3月19日(木) 14:30～18:30
- 場所：三菱総合研究所 本社
- 3PDU

● 月例セミナー

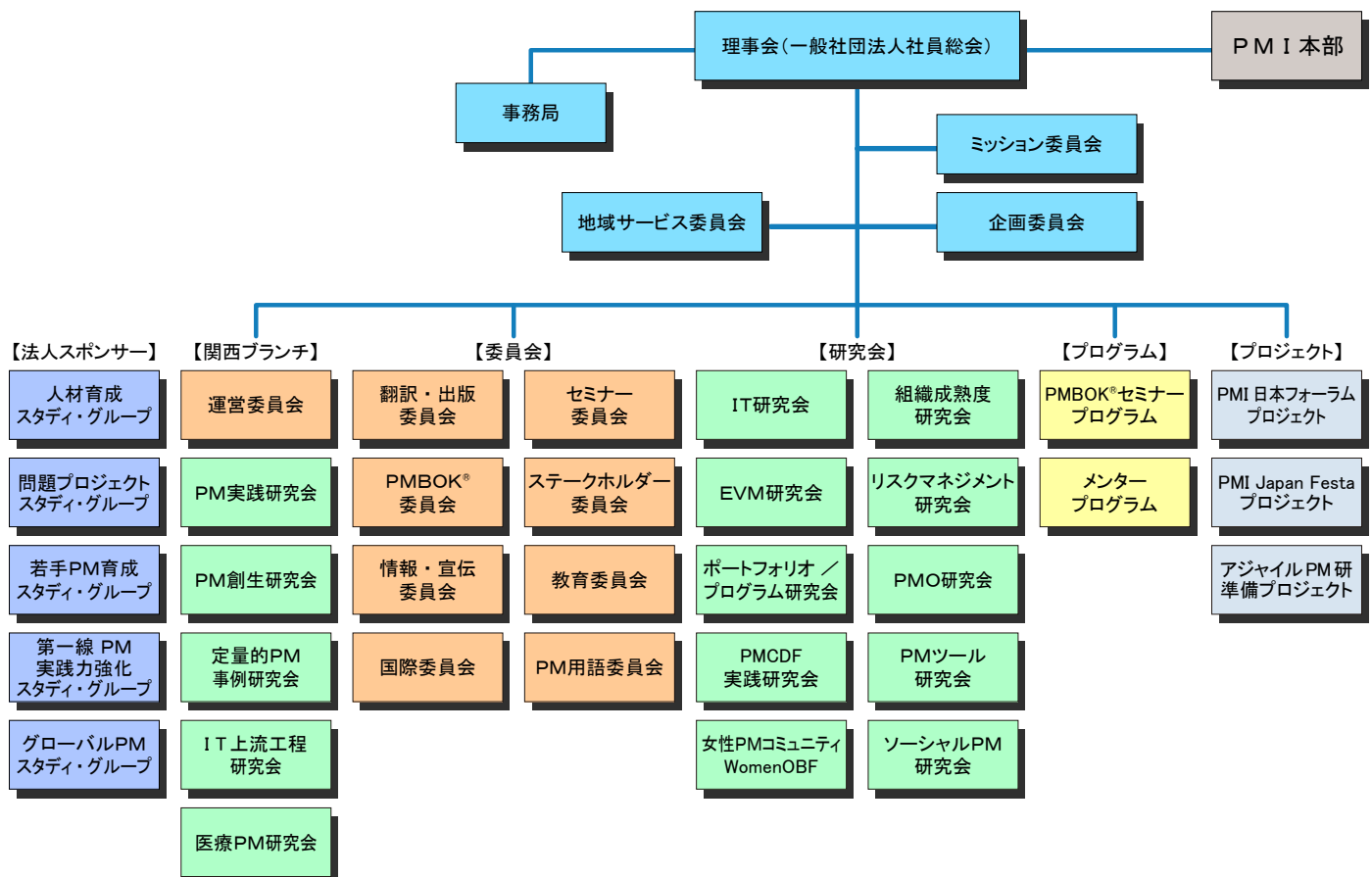
- 日時：2月20日(金) 19:00～21:00
3月18日(水) 19:00～21:00
4月17日(金) 19:00～21:00
5月15日(金) 19:00～21:00
6月12日(金) 19:00～21:00
- 場所：アクセス渋谷フォーラム
- 2PDU

*なお、イベント、セミナー、コースなどは、諸般の事情により変更または中止される場合があります。
PMI日本支部ホームページで確認をお願いいたします。(https://www.pmi-japan.org/event/)

Fact Database / データベース

PMI日本支部やPMP®資格取得者に関する最新情報をお届けします。

■ 支部活動 (2014年12月現在)



■ 理事一覧 (2014年12月現在)

会 長	: 奥 澤 薫 (日本電気株式会社)
副会長	: 片 江 有 利 (株式会社プロシード)
理 事 (ミッション担当)	: 端 山 毅 (株式会社NTT データ)
理 事 (マーケティング・会員担当)	: 徳 永 幹 彦 (株式会社日立インフォメーションアカデミー)
理 事 (マーケティング・会員担当)	: 武 上 弥 尋 (アイエス情報システム株式会社)
理 事 (研究担当)	: 当 麻 哲 哉 (慶應義塾大学大学院)
理 事 (教育担当)	: 本 間 利 久 (北海道大学)
理 事 (教育担当)	: 中 嶋 秀 隆 (プラネット株式会社)
理 事 (渉外担当)	: 杉 村 宗 泰 (日本マイクロソフト株式会社)
理 事 (社会貢献担当)	: 高 橋 正 憲 (PMプロ有限会社)

理事 (社会貢献担当)	: 麻生 重樹 (日本電気株式会社)
理事 (広報・宣伝担当)	: 竹内 正興 (一般財団法人国際開発センター)
理事 (財政担当)	: 三嶋 良武 (株式会社三菱総合研究所)
理事 (地域担当)	: 神庭 弘年 (神庭PM研究所)
理事 (地域担当)	: 木下 雅裕 (ニッセイ情報テクノロジー株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 福本 伸昭 (日本アイ・ビー・エム株式会社)
理事 (コンピテンシー担当)	: 除村 健俊 (株式会社リコー)
監事	: 大久保 賢吉朗
監事	: 渡辺 善子

■最新の会員・資格者情報 (2014年10月末現在)

会員数		資格保有者数						
		PMP®		PMI-SP®	PMI-RMP®	PgMP®	PMI-ACP®	CAPM®
PMI本部	日本支部	世界全体	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住	日本在住
454,379人	3,128人	636,384人	31,596人	4人	4人	4人	11人	59人

■行政スポンサー (2014年12月現在)

- ・三重県 桑名市

■法人スポンサー 一覧 (104社、順不同、2014年12月現在)

- ・TIS株式会社
- ・日本アイ・ビー・エム株式会社
- ・株式会社NSD
- ・株式会社プロシード
- ・株式会社インテック
- ・キャノンITソリューションズ株式会社
- ・NTTコムウェア株式会社
- ・日本電気株式会社
- ・株式会社ジェーエムエーシステムズ
- ・アイアンドエルソフトウェア株式会社
- ・株式会社NTTデータ
- ・日本マイクロソフト株式会社
- ・プラネット株式会社
- ・株式会社建設技術研究所
- ・日本ユニカシステムズ株式会社
- ・株式会社クレスコ
- ・ラーニング・ツリー・インターナショナル株式会社
- ・日本ヒューレット・パカード株式会社
- ・株式会社アイ・ティー・ワン
- ・コンピューターサイエンス株式会社
- ・株式会社タリアセンコンサルティング
- ・TDC ソフトエンジニアリング株式会社
- ・株式会社大塚商会
- ・日本プロセス株式会社
- ・株式会社NTTデータ関西
- ・日本ユニシス株式会社
- ・Kepner-Tregoe Japan, LLC.
- ・JBCC株式会社
- ・株式会社富士ゼロックス総合教育研究所
- ・日本アイ・ビー・エム・ビズインテック株式会社

- 株式会社アイテック
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・フロンティア
- 株式会社日立インフォメーションアカデミー
- 情報技術開発株式会社
- 富士ゼロックス株式会社
- アイシンク株式会社
- 千代田システムテクノロジーズ株式会社
- 三菱総研DCS株式会社
- ソニー株式会社
- 東芝テック株式会社
- 三菱スペース・ソフトウェア株式会社
- 株式会社三菱総合研究所
- NTTデータアイ株式会社
- 新日鉄住金ソリューションズ株式会社
- 株式会社日立ソリューションズ
- 日本自動化開発株式会社
- 日揮株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社アイ・ティ・イノベーション
- NECネクサソリューションズ株式会社
- 株式会社三技協
- 株式会社JSOL
- NEC ネットエスアイ株式会社
- リコーITソリューションズ株式会社
- ニッセイ情報テクノロジー株式会社
- 株式会社RINET
- 株式会社リコー
- 株式会社システム情報
- ソニーグローバルソリューションズ株式会社
- 住友電工情報システム株式会社
- 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ・ユニバーシティ
- 株式会社マネジメントソリューションズ
- トップランエムアンドアイ株式会社
- PMアソシエイツ株式会社
- 株式会社日立製作所
- 株式会社システムインテグレータ
- 日本ビジネスシステムズ株式会社
- コベルコシステム株式会社
- 日本電子計算株式会社
- 富士電機株式会社
- 株式会社日立システムズ
- 株式会社神戸製鋼所
- 日本証券テクノロジー株式会社
- 株式会社リクルートテクノロジーズ
- クオリカ株式会社
- 株式会社エクサ
- International Institute for learning - Japan 株式会社
- 株式会社ラック
- ニューソン株式会社
- 三菱電機株式会社
- TAC株式会社
- 日本情報通信株式会社
- 日立INSソフトウェア株式会社
- 株式会社シグマクシス
- アーケイディア・コンサルティング株式会社
- 株式会社TRADECREATE
- 株式会社日本ウィルテックソリューション
- システムスクエア株式会社
- 株式会社アイ・ラーニング
- 株式会社トヨタコミュニケーションシステム
- 東芝インフォメーションシステムズ株式会社
- 株式会社パソナ パソナキャリアカンパニー
- 株式会社エンラプト
- グローバルナレッジネットワーク株式会社
- Innova Solutions, Inc.
- 株式会社ワコム
- 株式会社HGSTジャパン
- NCS & A株式会社
- 日本システムウエア株式会社
- 日立物流システム株式会社
- SCSK株式会社
- プライスウォーターハウスクーパース株式会社
- アクシスインターナショナル株式会社
- クインタイルズ・トランスナショナル・ジャパン株式会社

■アカデミック・スポンサー 一覧 (27教育機関、順不同、2014年12月現在)

- 産業技術大学院大学
- 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科
- サイバー大学
- 芝浦工業大学
- 金沢工業大学
- 九州大学大学院芸術工学府デザインストラテジー専攻
- 広島修道大学経済科学部
- 北海道大学 大学院情報科学研究科
- 山口大学大学院技術経営研究科
- 筑波大学大学院システム情報工学研究科 コンピュータサイエンス専攻
- 早稲田大学 ビジネススクール
- 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 情報理工学科
- 公立大学法人 広島市立大学 情報科学部
- 国立高等専門学校機構 仙台高等専門学校
- 北海道大学 サステナビリティ学教育研究センター
- 大阪大学 大学院工学研究科 ビジネスエンジニアリング専攻
- 愛媛大学工学部および大学院理工学研究科工学系
- 国立高等専門学校機構 八戸工業高等専門学校
- 学校法人中部大学 経営情報学部
- 京都光華女子大学
- 鹿児島大学産学連携推進センター
- 中央大学 文学部社会情報学専攻
- 千葉工業大学 社会システム科学部 プロジェクトマネジメント学科
- 京都工芸繊維大学 ものづくり教育研究支援センター
- 東京工科大学大学院 コンピュータサイエンス専攻
- 北海道情報大学
- 山口大学工学部知能情報工学科

Editor's Note / 編集後記

執筆者の皆さまへ。お忙しいところ、ご協力いただきありがとうございました。

- 今号のトップは、去る10月26日～28日に米国アリゾナ州フェニックスコンベンションセンターで開催されたPMI Global Congress 2014-North Americaに参加した奥澤薫会長、片江有利副会長から、その概要報告です。
- 本年11月8日・9日の二日間で延べ750名の方々にお越しいただいた「PMI Japan Festa 2014」。本イベントの企画・運営を担当したPMI日本支部セミナー委員会メンバーによる概要報告を掲載しました。
- 東日本大震災を契機に立ちあがった「災害復興支援プログラム」。そこから発展した「ソーシャル・プロジェクトマネジメント（ソーシャルPM）研究会」の第三回目の紹介として、WG3（普及活動）リーダーの小谷野正博氏、WG4（実践）リーダーの徳永礼から活動内容について寄稿いただきました。

ニュースレター編集担当から読者の皆様へお願い

皆さまからの書評、論評、トピックス、セミナー受講レポート、プロジェクト体験記、PMP認定試験受験体験記などを募集しています。PMI日本支部事務局宛てにお送りください。

今年も一年、大変お世話になりました。

来年もPMI日本支部をどうぞよろしくお願い致します。

PMI日本支部ニュースレター Vol.61 2014年12月発行

編集・発行：PMI日本支部 事務局

〒103-0008 東京都中央区日本橋中洲3-15 センタービル3階

TEL：03-5847-7301 FAX：03-3664-9833

E-mail：info@pmi-japan.org

ホームページ：https://www.pmi-japan.org/

(非売品)